

ねいの里 ホオホオニュース



「人の生活を豊かにする環境保全活動」

生物多様性保全推進員 渡部 美智子

私は4月から生物多様性保全推進員としてねいの里に就職しました。都内の自然環境系の専門学校を卒業し、自然環境保全に携わる仕事がしたいと考え、この職場に就任しました。

「生物多様性」という言葉は昨年、名古屋で開催されたCOP10をきっかけに一般にも広まり、種や生態系の保全活動を行う上で基本となる保全目標です。私が就任した生物多様性保全推進員は、一般の方に生態系を保全する大切さを伝え、野外での直接的な動植物調査にも取り組むという多様な役割を持っていると考えています。

その他の仕事として、季節ごとに行われる自然観察会などのイベント準備や、訪れたお客様への対応、展示物の作成など様々な内容があります。

私がこのような、自然に携わる仕事をしていて今強く実感していることは、自然環境とは「人の生活をより良くする為」に保全するものだということです。たとえ野生生物や自然を相手にした仕事であっても、一緒に働くのは“人”であり、このねいの里には自然観察やハイキングにたくさんのお客様が訪れます。そのようなお客様への親切な接客を第一に大切にしたいと考えています。

今日、人間活動による自然環境の悪化によって、野生動植物の種数の減少が問題となっている中で、生態系の保全をしていくことは重要なテーマであります。しかし、これらを保全する理由は、私たち人間が自然という生物資源無くしては存続することができないのだ、というシビアな理由が第一に挙げられると思います。しかしそれと同時に、人間も生態系の一員として存続していくための努力を許されていると思います。

だから私は、自然環境を保全して生物にとっての生息・生育環境をよくするだけでなく、生物の生息・生育環境をよくすることによって、人の生活環境が豊かになる保全活動を考えて行きたいと思っています。

新社会人ということもあり知識、経験不足で職場のスタッフの方々に迷惑をかけることがこれからも多いと思いますが、ねいの里の里山風景の中で経験を積み、自然環境と仕事について学んで行きたいと思っています。

囲炉裏とヘイケボタル観賞 6月19日(日)

5年目を迎えたヘイケボタルボタルの鑑賞会が水辺の生態園で行われました。駐車場からの会場まで及び会場廻りは6月11日(土)に準備した竹アンドンが並べられました。まずはナチュラリストの山下真佐子さんからボタルの生態やボタルに由来する話がありました。薄暗くなると参加したジュニアナチュラリストの皆さんが竹アンドンに点火、水辺を幻想的に照らしました。

観察会が始まり、各池の周りには、淡い光が一つ2つと飛び始め参加者が駆け寄っていました。2~3日前まではポツリ、ポツリと飛んでいただけで大変心配していましたが、しかし鑑賞会当日は従来になく広い範囲でヘイケボタルが飛び交い、参加された皆さんは感激されていました。我々が子供の頃は家の廻りで見られたボタルも、今は人が手を加えて生息環境を維持する必要があります。ねいの里でのヘイケボタルの増殖は、里山でのビオトープ作りの成果の一つだと思います。



里つこ山つこにっくに

私のジュニアナチュラリスト活動

小学6年 西 航大



ぼくは、幼いころから、自然とふれ合うことがとても好きでした。春になると祖父といっしょに山菜とりに出かけました。

また、家族で川遊びやキャンプなどにも行きました。家族と楽しい時間を過ごすなかで、たくさんの生き物を見つけました。ぼくは自然の中で活動することが大好きになりました。

4年生になって、ジュニアナチュラリストの養成講座と出会いました。いろんな分野の先生方が授業をされましたが、どのお話もとても楽しくて、ぼくは、もっと自然とふれ合ったり、知識を教わったりしてみたいと思いました。

念願のジュニアナチュラリストになってからは、野外で行う観察会や調査活動、放流や放鳥など、これまで体験したことがない活動がたくさんあって、わくわくしました。

中でも、放流や放鳥の活動が好きです。動物が元気に自然へもどっていく姿や、鳥が「バサッ、バサッ」と羽音をたてて空に飛び立っていく様子を見ると、「元気でがんばれよ。」という気持ちになります。

また、アサギマダラのマーキング調査も大好きです。あの小さな体で、海を渡り、遠く2000kmも離れた場所まで飛んでいくチョウがいるなんて、すごく驚いたし、もっとこのことを多くの人に知ってもらいたいと思います。

ぼく達がマーキングしたアサギマダラが、いつか南の国で見つかることを願って、これからも調査をしていきたいです。ぼくは、これからもジュニアナチュラリストとして、自然を大切にしていきたいと思っています。



活動をふりかえり

愛鳥週間「探鳥の日」5月15日 河南 翔太(ジュニアナチュラリスト)

当日は、朝から天気が良く、バードウォッチング日和でした。僕は、初めてのバードウォッチングでした。どんな鳥が見られるか楽しみでわくわくしていました。思ったよりも山道は険しく、鳥の鳴き声に耳をすませるところではありませんでした。「ツツピー、ツツピー」と、ヤマガラやの鳴き声が聞こえてきました、どこにいるのかと、聞こえて来る方を一生懸命に探しましたが見つけられませんでした。

池のそばまで来るとラジオのようなにぎやかな音が聞こえてきました。カワウのコーニーでした。子育ての真最中で少し小さなカワウもいました。後で教えてもらいましたが、去年で380羽もいたそうで更に驚きました。

その後、ホオジロの「一筆啓上、・・・」の、鳴き声が聞こえて来ました。木の天辺で鳴いている、ホオジロの姿を見ることができました。口を開けて鳴いていました。鳴いているのは、オスでした。長谷川さんに、「オスしか鳴かないよ。」と、教えてもらって、ああそうかと思いました。とても楽しいバードウォッチングが出来ました。今度は、カワセミを見たいです



毎月第1土曜日が活動日です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)
昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでわいわい楽しく食べましょう。

8月21日(日) ねいの里と共催	9月3日(土)
○ 18時30分 ~ 20時 ・ クツワムシを愛でる ねいの里で復活に成功した、秋の虫クツワムシその趣のある鳴き声を愛でます。	○ 午前9時30分 ~ 12時 ・ 園内整備 いつも活動の場所として利用させて頂いている「ねいお里」で外来種除去等の園内整備を行います。終了後は炭焼き小屋でお昼を食べます。
参加者/定員なし	参加者/定員なし

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

ねいの里行事予定

8月21日(日) 自然塾の会と共催	10月10日(祝)
○ 18時30分 ~ 20時 ・ クツワムシを愛でる ねいの里で復活に成功した、秋の虫クツワムシその趣のある鳴き声を愛でます。	○ 午前9時 ~ 13時 ・ キノコ狩りとキノコ汁を愛でる 自然塾の会と共催行事です。
参加者/定員なし	定員なし(事前申し込み)

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 7月13日 ~ 7月26日 環境月間ポスター展
- 8月1日 ~ 8月31日 自然保護協会 環境写真展
- 7月15日 ~ 8月31日 県内のカブト・クワガタ淡水魚展

■ お願い ■

- **平成23年度「生き物ふれあい自然塾の会」会費納入のお願い**
平成23年度「生き物ふれあい自然塾の会」会費を受け付けています。未納の方会費の納入よろしくお願いたします。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第22号
2011年7月10日
生き物ふれあい自然塾



ねいの里開園30周年記念行事開催



今年ねいの里開園30周年です、これを記念して6月18日「いこいの村磯波風」で開園30周年行事「里地里山の生物多様性をめざして」が開催され155名の参加者がありました。

午前中は記念セレモニーと講演会が行われ、午後からはねいの里の水辺の生態園で自然観察会を行いました。記念セレモニーでは主催者の埴生雅章県民福祉公園副理事長と富山県自然保護課長塚本一秋氏の挨拶があり、長井真隆元富山大学教授、吉田孝生き物ふれあい自然塾の会会長、ねいの里の企画を担当された元富山県自然公園課長成田研一氏からご祝辞を頂きました。いずれも里山の生態系を保護しているねいの里の重要性を述べられ、今後とも県民に愛される施設となるよう発展して欲しいとのご祝辞を頂きました。

続いて記念講演に入り、NHK夏休みラジオ子供科学相談でお馴染み、現在群馬昆虫の森館長、矢島稔先生に「昆虫の生き方」と題して講演して頂きましたが、その前に司会の湯浅純孝ねいの里館長から、急遽子供科学相談と題して、参加して頂いたジュニアナチュラルリストから矢島先生への質問コーナーが設定され、3名の児童が質問をしました、矢島先生からはこんせついでねいに回答して戴きました。特に最初に質問をした西航大くんは以前NHKに電話質問をしたが、満員で取り上げてもらえなかったとの事で今回直接質問ができて大変うれしかったと話していました。

講演では、昆虫たちが天敵から身を守るそれぞれの擬態方法をスライドで紹介され、参加者は木や葉の中に身を隠す昆虫たちの技に感心していました。後半は矢島先生が長く研究に取り組んでおられるホタルのついてのお話でした。分かり易いスライドでホタルの一生について説明があり、普段見る事が出来ない生態を知ることができ大変役立つ内容でした。翌日がねいの里の「ヘイケホタル鑑賞会」であり、これもタイミングの良い講演でした。

午後からは水辺の生態園に場所を移し、怪我などで鳥獣保護センターに保護され、健康となったオオルリとトビの放鳥を行いました。又ホクリクサンショウオヤコオイムシ等ねいの里に生息する希少な生きものも展示され、湯浅館長や矢島先生からの解説があり皆さん熱心に聞き入っていました。

5号池にかけられたトラップにはカゴ一杯のタナゴ類がかかり、豊かな生息環境が確認されました、現在継続的に進めているテナガエビの増殖のため、その放流も行いました。

最後はハッチョウトンボの遊園地での観察会を行い、参加者は目を凝らして世界一小さなトンボを探していました、今年は多く姿を見せており、皆さんはその小さな生きものに関心されたようです。観察会では、富山県のレッドデータブックに記載されている70種を超える生物が確認されている、ねいの里の貴重な一面を確認してもらい行事を終了しました。



後日、矢島先生からも大変楽しい観察会であったとのコメントを頂き、今後ともこの貴重な里山環境を維持発展させて行く必要を強く感じました。

